

11月22日 消防機械器具配置式

## 地域防災力の向上へ

第1分団第3部(新穀町)の消防ポンプ自動車<sup>かつゆき</sup>が更新され、配置式が市総合防災センターで行われました。式には、消防団員14人が出席。本町市長から松田克之消防団長に配



性能が上がった新車両に期待を寄せる団員

置書と車両の鍵が手渡されると、団員たちは市民の生命と財産を守る活動に意欲をより一層高めました。導入費用は約2,140万円です。

11月19日 ふれあいホーム上郷で長寿を祝う

## 青笹町の菊池チヨさん100歳

100歳を祝う会は同所で開かれ、家族や施設職員らが祝福。ひ孫からチヨさんの似顔絵が贈られると、にっこりと笑顔を見せていました。チヨさんは、青笹町出身。農業



家族から祝福されるチヨさん(右下から3人目)

などで生計を支え、子ども6人を育て上げました。現在は、孫・ひ孫・玄孫30人に恵まれ、同所に通いながら自宅で元気に過ごしています。

11月10日 みちのく<sup>アラート</sup>2018

## 4年ぶりの災害対応実動訓練

大規模災害に備えて陸上自衛隊東北方面隊と関係機関が実施する実動訓練は、早瀬川緑地公園などで行われ、市民ら約500人が来場しました。当日は、災害時の仮設入浴場



早瀬川に仮設された道路で対岸へ渡る市民ら

や医療設備、市婦人消防協力隊と連携した炊き出し訓練などを公開。来場者は、災害時に展開される支援を学び、防災意識を高めました。

10月30日 第45回遠野市乗用馬市場

## 遠野産駒に全国から熱視線

本州で唯一開かれる乗用馬市場は遠野馬の里で開催され、1、2歳馬とポニーの計29頭を上場。全国各地から訪れた購買人が遠野産駒に熱視線を向けました。今回の市場最高



この日最も注目を集めたキキマユ

価格は、谷淵隆朗さん(小友町)の所有馬キキマユ(1歳)で215万円。落札頭数は11頭、売上総額は前年比39%減の1,115万円でした。

Hello!  
Chattanooga Friends!

## 伊香学<sup>まなぶ</sup>のチャタヌーガNOW! Vol.8

米国チャタヌーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします!

## 公式訪問団がチャタヌーガを訪問 神楽の舞が姉妹都市の友情深める

米国テネシー州チャタヌーガ市との姉妹都市締結1周年(2017年9月15日締結)を記念し、遠野市公式訪問団がチャタヌーガ市を訪問しました。訪問団は、11月10日から15日まで6日間滞在。団長の及川増徳<sup>まげのり</sup>遠野市教育文化振興財団理事長をはじめ、平倉神楽のメンバー11人を含む計14人がチャタヌーガ市民との交流を深めました。

今回の訪問は、遠野市の伝統芸能である神楽を通じて交流することが目的。滞在中、チャタヌーガ市内6か所で公演を行いました。

テネシー大学チャタヌーガ校や訪問団歓迎セレモニーが行われたベシースミスカルチャーセンターなどでは、一般市民を対象として神楽を披露。歓迎セレモニーの会場にはアンディー・パーク市長と在ナッシュビル日本国総領事館

の小林弘之<sup>ひろゆき</sup>総領事夫妻が出席され、遠野の伝統芸能を楽しんでいただきました。また、長年にわたり遠野の中高生を受け入れしているCSLA校とCSAS校、交流をサポートいただいているコマツアメリカ社で感謝の気持ちを込め、公演を行いました。

初めて神楽を見たチャタヌーガ市民は、優雅な舞に目を奪われ、時折、太鼓や笛の根に合わせリズムを取る姿が見られました。各会場で多くの人に鑑賞していただき、「とても素晴らしい」「遠野に行きたい」などの感想をいただきました。

一行はその後、アトランタ市内を1日視察し、16日に帰遠。チャタヌーガ市民の協力もあり、両市の交流は大成功を収めることができました。

See you again.

1\_平倉神楽保存会のメンバー。テネシー川の前で記念撮影 2\_クリエイティブディスカバリーミュージアム(子ども科学館)で舞を披露。初めてみる神楽に興味津々な子どもたち 3・4\_公式セレモニーでは、アンディー・パーク市長(右)らの歓迎を受けました



## 11月17日 「トンネルを歩いて隣町に行ってみよう！」 国道340号開通プレイベント開催

県土木センターは、同国道立丸峠工区の開通を前に、トンネル内を見学するイベントを開催。遠野・宮古の両市民約70人が参加しました。トンネルの遠野市側と宮古市側からそれぞれの市民が出発。中央の市境で合流し



トンネル完成を喜ぶ遠野市民

トンネルの完成を祝いました。29日の開通式の様子は、広報遠野1月号でお知らせします。

## 11月8・12日 ブラインドサッカー体験会・ユニバーサルマナーセミナー開催 「思いやりの気持ち」を込めた支援を

東京2020パラリンピック大会の視覚障害者5人制サッカー・ブラジル代表の宿舎が決定している本市。市内各所で障がいやブラインドサッカーの理解と知識を深めるイベントが開かれました。

体験会は8日、遠野中学校と稲荷下屋内運動場で行われ、遠野中2年120人と市民ら約70人が参加しました。ブラインドサッカー元日本代表の落合啓士<sup>ひろし</sup>さんを講師に、アイマスクと音の鳴るボール

を使ったサッカーを体験。参加者は、相手の立場になって情報を伝える大切さを学びました。

12日には、セミナーがあえりあ遠野で開催され、市民ら約50人が参加。聴覚に障がいのある薄葉幸恵さんと視覚に障がいのあるパラ水泳アスリート窪野一輝<sup>ひとし</sup>さんが実体験をもとに講話。「思いやりの気持ちを持つこと」「できる支援をできる範囲で行うこと」が障がい者の支えになると伝えました。



1・3\_目で確認できない布さとブラインドサッカーの楽しさを体験 2\_障がい者への支援のあり方を語る講師の薄葉さん

